

昭和女子大学 人間文化学部 歴史文化学科

アーキビスト課程



Let's Learn About
Archivists!

OPEN **2026**
CAMPUS

2026年度オープンキャンパス

6月21日(日)/7月19日(日)/8月22日(土)・23日(日)
9月12日(土) アーキビスト講演会

詳細・お申し込みはこちら!



全国の女子大学で初めて
「アーキビスト」について本格的に学べる課程です。

POINT

1

歴史や文化、日本や世界、
多岐に渡る学問分野を
横断的に学ぶことができます。

POINT

2

実物の資料を使った
実習で、実践的に
学ぶことができます。

POINT

3

アーキビスト資格に加えて、
関連するさまざまな
資格の取得が可能です。



What's an Archivist?

アーキビストとは、記録を守り、将来に伝えていく仕事です。MLAを始め、様々な分野で活躍しています。

アーカイブズとは、官公庁などの行政文書、民間企業などの文書、古文書などの歴史資料など、さまざまな組織や集団が作成した文書一記録遺産のことを意味します。さらに、これらを整理・保存・公開する機能をもった文書館・公文書館などの機関のことも意味します。

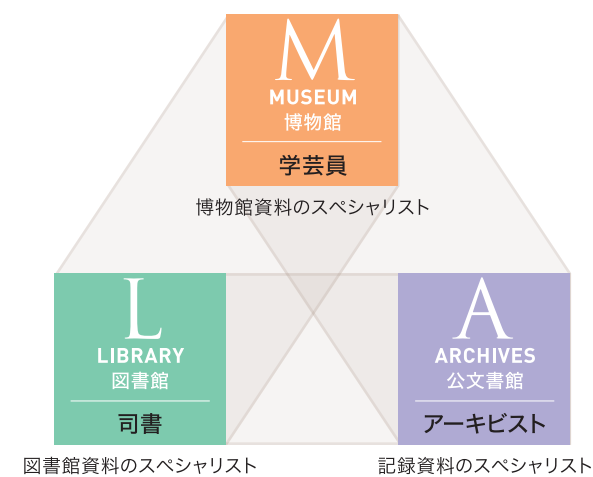
アーキビストとは、アーカイブズ機関などで、記録遺産を守り伝える役割を担う専門職です。アーキビストの仕事は、記録遺産の収集・整理・分類・管理・保存など、多岐にわたります。

これまでは専門資格がありませんでしたが、2021年1月から、国立公文書館が「認定アーキビスト」の認定制度を開始し、2024年1月からは、「准認定アーキビスト」の制度も始まるなど、近年、アーキビスト制度の整備が進んでいます。

アーキビストは公文書館をはじめ、博物館、図書館、大学、学校、さらに民間企業などで、これからの活躍が期待される新たな専門職です。

また、地域の歴史文化遺産を守り伝えるには、公文書館(Archives)に加え、図書館(Library)、博物館(Museum)の

連携が重要です。このことを担うのが、アーキビストと図書館司書、博物館学芸員です。歴史文化学科では、アーキビストに加え、学芸員、司書、さらに関連するさまざまな資格の取得が可能です。併せて取得することで、MLA連携に関わるキャリアが期待できます。



歴史と文化、日本と世界を横断する多様な講義や実習で、アーカイブズ学をしっかりと学びます。

多岐にわたる学問分野を履修

- アーカイブズ学に加え、日本史・東洋史・西洋史をはじめ、考古学・民俗学・美術史・芸能史など、アーキビストの仕事に関わる様々な学問分野を学ぶことができます。
- ヨーロッパ歴史文化演習Bではイタリアなどの文書館で専門家の講義を受けることができます。



西洋史授業風景



ヨーロッパへの短期留学プログラム

実物の貴重な資料で実習

- 実物の江戸・明治期のアーカイブズ資料を用いて実習を行います。資料整理・目録作成・デジタル化・webでの公開を行います。
- この体験を通じて、アーキビストに求められる知識や技能を実践的に学ぶことができます。



アーカイブズ実習風景



実際の資料を使った実習

多くの資格を取得可能

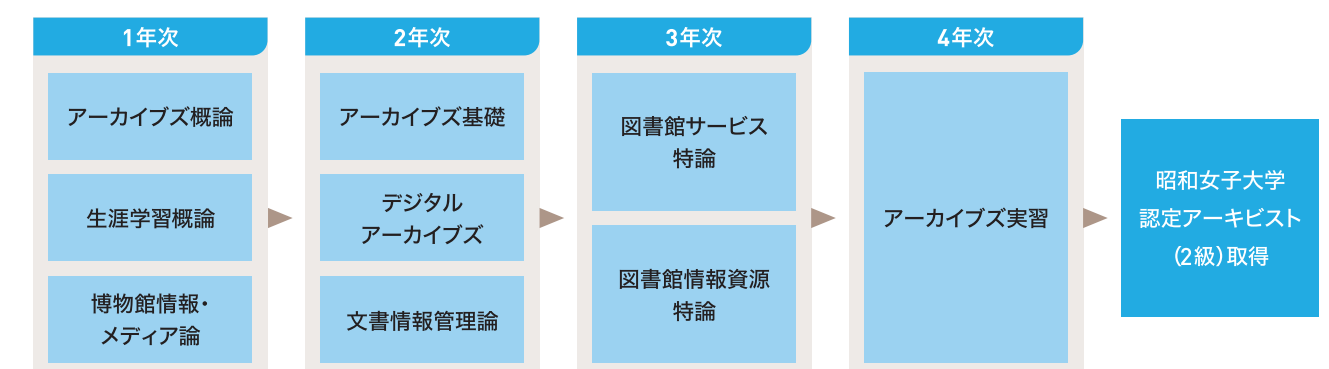
- アーキビスト課程の単位を取得することで、昭和女子大学認定アーキビスト(2級)の資格を取得することができます。
- 図書館司書・博物館学芸員など多くの関連資格の取得が可能です。また、文書情報管理論を履修することで、文書情報管理士(2級)の資格が取得できます。
- 大学院(生活機構研究科生活文化研究専攻)に進学し、所定の科目を履修すると、昭和女子大学認定アーキビスト(1級)を取得できます。さらに、国立公文書館に申請の上、准認定アーキビストに認定されます。

- 歴史文化学科では以下の資格を取得することができます。

学芸員／考古調査士(2級)／高等学校教諭一種(地理・歴史、公民)／中学校教諭一種(社会)／図書館司書・司書教諭／文書情報管理士(2級)／昭和女子大学認定アーキビスト(2級)／日本語教員(大学認定証)／社会福祉主事(任用資格[※])

※任用資格とは公務員に採用された後、特定の業務に任用されるのに必要な資格です。

履修カリキュラムのイメージ



Voices of Students

アーキビスト課程の先輩たちが経験談を語ってくれました。

プロジェクトから実習まで —アーカイブズで広がる学び—

「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」に参加し、被団協関連史料の保存や目録作成に携わったことが私の原点です。

日本統治期の台湾をテーマにした卒業論文の執筆において、国内外の多様な史料に触れたことで、その保存と利活用に惹かれ、大学院でアーカイブズの本格的な学びを決めました。特に文書館での実習は、現用文書が歴史資料へと変わるサイクルを肌で感じる貴重な機会となり、現在の業務を支える大きな糧となっています。

アーキビスト課程での学びを基礎に、これからも専門性を深め、研鑽を積んでいきたいです。

生活文化研究専攻修了 東京大学文書館 印出也美



ヨーロッパで体験したアーカイブズ



国立ヴェネツィア文書館は、かつてヴェネツィア共和国で作成された文書を中心として一元的に管理する国立機関です。文書は出所原則に基づいて組織ごとに分類され、体系的に保存されています。文書の重量に耐えられるよう、元修道院の建物を二重の壁で補強しています。決議録等の重要文書は平置きにしつつも、国内外の書簡などが壁一面の書棚に並んでいる光景から、限られた空間の中で文書を後世に伝えるという強い意識がうかがえます。また、共和国が他国の動向にも目を向けていたことが読み取れ、海上交易国家としての広い視野と情報収集力の高さを実感しました。同文書館は、情報を重視し国家運営に活かした共和国の特徴を体現する場で、地中海にまたがる強大な国家を支えた背景には、こうした徹底した記録と情報管理の積み重ねがあることを実感できました。

歴史文化学科 2年 長谷川絢乃

「大学で勉強した」で終わらせない

アーキビスト課程で学ぶことが、将来どう社会とつながるのか。具体的なイメージが湧きにくいかもかもしれません。私自身、この春から文書の保管やデジタル化を支援する企業に入社し、研修の日々を送る中で、その繋がりを実感し始めています。

私が考えるアーキビストの核は、「何を、どう残し、どう活用するか」という評価選別にあります。

例えば、皆さんが高校まで使っていた教科書。進級時に「捨てるもの」「残すもの」「迷うから一旦とっておくもの」を選んだ経験はありませんか？ 実はこれも立派な文書管理サイクルの一つです。アーカイブズ学は決して遠い世界の学問ではなく、私たちの生活の地続きにあるものだと考えると、ぐっと面白く感じられるはずです。

私が現在の仕事を選んだのは、大学で学んだ知識を一過性のものにせず、実社会で活かしたいと考えたからです。現在は新入社員として、自社のサービスの基盤から、企業アーカイブズの保管について学んでいます。

今はまだ、現場の実情をつつと吸収している段階ですが、将来的には単なる保管に留まらず、その先の「利活用」まで提案できるプロフェッショナルを目指しています。皆さんも、まずは身近な視点からアーカイブズの面白さを見つけてみてください。

歴史文化学科卒業 株式会社NXワンビシアーカイブズ 山路絵和

お問い合わせ

昭和女子大学
人間文化学部 歴史文化学科
E-mail: rekibun@swu.ac.jp (湯上・三野)

入試に関するお問い合わせ 電話受付時間 平日9:00~16:00 詳しくはこちら

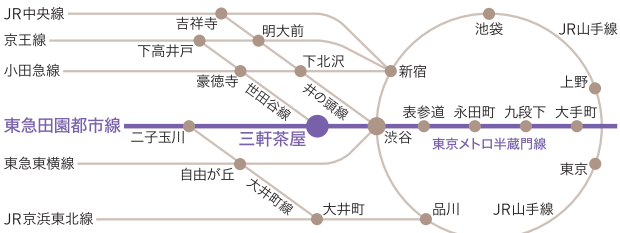
アドミッションセンター 0120-5171-86
TEL.03-3411-5154 E-mail: spass@swu.ac.jp



交通アクセス

所在地: 東京都世田谷区太子堂1-7-57

東急田園都市線 / 三軒茶屋駅 (渋谷から3分) 下車徒歩7分



必ず「昭和女子大学入試要項」とあわせてご覧ください。